

令和3年度 自己評価・学校関係者評価

岐阜県立加納高等学校 学校番号 5

1 学校教育目標	<p>「21世紀における国家・社会のリーダーを育てる」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大志を実現するため、学問を尊ぶ気風を広め、高い学力を養う。 2. 濃やかな感性と国際的な感覚を養うため、文化を尊重する校風をつくる。 3. 品性ある豊かな人間性を身に付けるため、高い道徳観及び倫理観を培う。
-----------------	--

I 自己評価 【教務部】

2 現状の分析	<p>○自分の将来像を考え、その実現のために主体的に学習に取り組み始める時期が遅い生徒が多く見られる。</p> <p>○生徒、保護者を対象とするアンケート（令和3年7月実施）では、コロナ禍の影響か、教職員の学習指導への姿勢や、授業内容等への信頼度の低下がみられる。また、能力に応じた指導を行っていると感じている生徒は5割を切っており、指導方法の工夫が求められている。</p> <p>○「地域共創フラッグシップハイスクール（FRH）事業」が始まり、3年目を迎えた。昨年の成果から、探究的な学習を通して地域課題の発見とその背景について考察を深め、論理的思考力や課題解決能力など、社会に求められる力を育成するための方法の一つとして取り組んでいく。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と連携を図りながら、生徒の学習習慣の確立とキャリアデザインを進める。 ・「本時の目標」の定着を図り、生徒が目的意識をもって授業に臨む習慣を身に付けさせる。 ・教科会の充実を図り、「言語活動」「アクティブラーニング」「ICT機器」を取り入れ、深い学びに結びつく授業研究を行う。
4 今年度の具体的な重点目標	<p>◇授業を重視し、主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。</p> <p>◇ICT機器の活用も含め、授業改善への取り組みを推進する。</p>

年度目標

年度末評価

5 評価・項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標				8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
		※アンケート（保護者・生徒）※学習時間調査（学）		指標	前年				
教務部 ◇学習指導	(1) 学習時間調査の分析 (2) 生徒による授業評価の分析 (3) 公開授業・研究授業 参観及び授業研究会	学	週当たりの学習時間 21 時間	1年	30%	18%	9%	C	○授業内容については生徒から概ね信頼を得ている。 ▲昨年に比べて学習時間の減少がみられる。コロナ禍で夏休み明けの休校期間もあり、オンライン学習支援によるサポートが十分でなかったと考えられる。ICT環境を活用し、さらなる授業改善と家庭学習習慣の確立に向けた、指導の工夫を進めたい。
			達成率	2年	40%	11%	10%		
			※10月調査結果	3年	90%	88%	67%		
		生	専門的知識が豊富であり、授業内容は信頼できる。	90%		87%	90%	A	
保	本校では、生徒にとって有益であり力になる授業が展開されている。		90%		82%	87%	B		
			90%		81%	82%	B		

12 来年度に向けての改善方策

- ・ICT環境をうまく活用し、臨時休業等があっても、継続的な学習支援体制を行い、目標意識を醸成させられるようLHRなどでライフプランについて考える機会を設けるとともに、自分の将来のために主体的に学習に取り組む姿勢を育てたい。
- ・また、家庭学習と授業とがリンクするような指導を行っていくよう授業改善に取り組んでいく。

【 総務部 】

2 現状の分析	○学校行事について、生徒・保護者ともに協力的で、各行事の運営を効率よくかつ厳粛に進めることができた。 ○会議資料の電子化が徹底されており、職員会議の紙媒体資料を減らすことができ、会議も効率よく進められた。
3 学校の抱える課題	・分掌、教科、学年、普通科、音楽科、美術科と連携し、職員の意志疎通を図る必要がある。 ・会議資料電子化に伴い、会議の効率化を図り、データをより利用しやすい形式になった反面、資料の確認が必要である。
4 今年度の具体的な重点目標	(1)式典・全校集会を通して、基本的な倫理観や秩序を重んじる態度を育成する。 (2)ゆめ会議かろう（学校運営協議会）を通して、本校の教育活動の理解を図り、地域の人たちの意見や要望を受け止め、学校経営に生かす。 (3)国際交流の機会を生かして、生徒一人一人の視野を広げ、平和的で民主的な社会を実現する人材となるよう意識を高める。 (4)日本学生支援機構の奨学金制度に加えて、地域や各種団体の奨学金制度の利用推進を図る。 (5)選挙権年齢が18歳以上となり、国家社会の有為な形成者をめざす公教育の一貫として主権者教育を地歴公民科と連携して推進する。 (6)会議資料および職員必携の電子化を進め、資料をより利用しやすいものにする。

年 度 目 標					年 度 末 評 価					
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標 ※アンケート(保護者・生徒・教員)			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価		
		指標	前年	結果						
総務部	(1) 早期の準備と、礼法指導等を通して秩序ある式典を行う	保	奨学金等の情報の周知度	*	*	*	奨学金の情報はHPや連絡メールで案内し、周知できた。	A	○奨学金の情報については、HPや連絡メールで迅速に案内できた。 ○式典はコロナ禍の中であることもあり、行事のスリム化を推し進めることができた。	A
	(2) ゆめ会議かろう等で、学校運営会議の委員の方に本校の教育理念の理解を図る	教	電子化された資料の定着度	90%	98%	98%	会議資料の電子化は、ほぼできており、継続していきたい。	A		
	(3) 留学生と本校生徒の交流を通して、国際的な感覚を養う (6) データのスリム化を呼びかけ、会議の効率を高める	教	式典・行事のアンケート結果	*	*	*	コロナ禍の中、入学式・始業式・全校集会等、職員・生徒の協力のもと、スムーズに行うことができた。	A		

12 来年度に向けての改善方策

- ・式典や集会等は、放送やICTを活用することで、今後もスリム化を図りたい。
- ・奨学金は、個人情報の管理の徹底を、今年度同様しっかりしていきたい。

【 進路指導部 】

2 現状の分析	<p>▲校外で実施される公開講座への参加者が少ない。</p> <p>○ハイレベルな模試に挑戦する生徒が増えた。</p> <p>○全校体制で入試対策期間における個別指導に取り組むことができた。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学習習慣の確立と生徒の学力向上 ・キャリア教育の推進 ・入試改革に向けた取組
4 今年度の具体的な重点目標	<p>◇知的好奇心を発掘し、主体的な学習姿勢を育み、学習意欲の向上や学習習慣の確立を図るとともに、模試等の結果分析を授業改善に結び付ける。</p> <p>◇学校での「学び」と自らの将来との接点を認識させることにより、新たな学習課題を発見させ、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にする。</p> <p>◇「思考力・判断力・表現力」や「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の育成を図る。</p>

年 度 目 標				年 度 末 評 価							
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価			
		※アンケート (保護者・生徒・教員)							指標	前年	結果
進路指導部 ◇進路指導	(1) 外部講師による講演会 (2) システム手帳の活用(テストを活用した到達目標の設定) ※ポートフォリオ作成(学修の記録)⇒PDCAサイクルの確立 (3) 「総合的な学習の時間」の活用 ※高校での「学び」と自らの将来の接点の認識 (4) 「進学指導重点校事業」の活用 ※上位層の伸長・探究学習への取組 (5) 学びみらいPASS・リクエスト講座の活用 ※「思考力・判断力・表現力」(新入試対応力)の育成	生	ハイレベル模試への受験 (1・2年全統記述、難関大模試)	1年	15%	10%	11%	・高レベルの模試に挑戦する生徒が微増 ・模試解説の活用 ・システム手帳の活用	B	▲コロナ禍のため、校外で実施される各種公開講座や体験講座に参加すること難しかった。 ▲コロナ禍のため、保護者進路研修会をビデオ配信としたが、直接、保護者に進路関係の情報を届けることができなかった。 ○昨年度実施できなかった1年生大学系統別説明が実施できた。 ○ハイレベル模試へ挑戦する生徒の増加 3年名大オープン 3年8月42名→51名 ○各種講演会や模擬授業に対する生徒の評価は好評であった。	B
				2年	50%	50%	39%				
				3年	20%	8%	15%				
		保	学校は進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。	90%	64%	84%	・保護者対象進路冊子の配布 ・保護者進路研修会をオンラインで配信	C			
			生	学校は生徒に様々な(適した)進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。	90%	77%			68%		
		◇国公立大現役合格者(R3入試)		170名	144名	137名	・外部講師による講演会 ①講演会「夢をかなえるコツ」 ②外部模試解説講義 ③名古屋大学オープン授業の実施	B			
◇志望上位国公立4大学現役合格者		80名	62名	45名							
◇国公立難関大現役合格者		20名	19名	13名							

12 来年度に向けての改善方策

・日々の学習の振り返りを通じて、学びの質を高め自立した学習姿勢を育成し、進路実現を図る。

【 生徒指導部 】

2 現状の分析	<p>○基本的な生活習慣の確立は、保護者との連携も図られ、概ね良好である。5分前登校についても、定着されつつある。 ▲交通事故件数は、昨年度より増加した。(14件→19件 12月末時点) 継続的なルールの遵守とマナーアップ指導が必要である。 ○情報モラルについては、やや改善された。一方で、校内でのスマホの時間外使用やスマホ依存が疑われる生徒が増加傾向にある。 ○スクールカウンセラーとの連携が図られ、充実した教育相談活動ができた。また、いじめ事案に対して、迅速な対応ができた。(6件→2件 12月末時点)</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動全体を通じた交通安全啓発活動を推進する。目標は交通事故年間20件以下。 ・ケータイ・スマホの使用方法等について生徒に考えさせ、よりよい使用法を身に付けさせる。 ・身だしなみ指導の継続とともに、制服以外での登下校、学校生活を認めつつ「服装規定」の見直しを推進する。 ・「時間を守る」という意識の向上と、遅刻を減らすために余裕をもった登校ができるように、全職員及び保護者とも連携して呼びかける。 ・教育相談活動のさらなる充実を図る。
4 今年度の具体的な重点目標	<p>◇基本的な生活習慣とモラル・マナーの定着 ・服装における身だしなみや時間(期限)を厳守する習慣を確立し、挨拶、安全マナーなど社会性を身に付けた品位ある生徒の育成を目指す。 ◇教育相談活動の充実 ・多様化する生徒への対応について、生徒理解に努め、相談スキルの向上を図る。</p>

年 度 目 標

年 度 末 評 価

5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標 ※アンケート(保護者・生徒・教員)			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
			指標	前年	結果			
生徒指導部 ◇生活指導 ◇教育相談 ◇人権教育	(1) 全職員による指導体制の確立	保	高校生としてふさわしい服装、頭髪等の指導を行っている。	90%	82%	75%	A	A
	(2) MSリーダーズやPTAと連携した交通安全運動		生徒の遅刻数(12月末時点)	*	1197	1435		
	(3) 全職員による遅刻数減少の取組及び登校時の声かけ指導	保	挨拶や遅刻防止など、基本生活習慣の育成指導を保護者と連携をとって進めている。	85%	67%	64%	B	
	(4) 職員研修会(発達障害に関するもの)	保	交通安全事件数(12月末時点)	*	14	19		
	(5) 人権教育の推進		子どもの安全面や衛生面に配慮し、交通安全、健康管理等の指導を行っている。	90%	79%	76%	A	
			交通安全啓発活動の実施	*	7回	7回		
			子どもの悩みについて担任以外の相談窓口を設け、その利用について十分知らせている。	70%	71%	69%	A	
		悩みごとなどに親切に対応してくれる先生が多い	80%	72%	76%	A		
		いじめや差別のない学校である。	100%	80%	79%		A	

12 来年度に向けての改善方策

・服装規定が大幅に改定され、生徒の主体的判断が尊重される方向で指導が始まるが、生徒任せではなく、大きな舵取りには注意をしながら、職員全体で徹底して指導すべき事項を精選する必要がある。服装同様、集団生活や他者を尊重したうえでの自由の意味を考えさせ、スマホ利用のあり方も見直しを進めたい。

【 特活指導部 】

2 現状の分析	<p>○今年度も新型コロナウイルスの影響があったが、白梅祭を始め、多くの学校行事を実施することができた。 ○コロナ禍の中で実施したスポーツ大会の運営方法に新たな活路を見い出せた。発想の転換で好転する行事は他にもあると考える。 ○私服登校をきっかけに、校則を見直す機会を得た。今年度も継続して審議していく。 ▲部の統廃合が進んでいない。(内規の見直しが必要) ▲算数ボランティアなど、人と人が触れ合うボランティア機会が減ってしまった。</p>								
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・白梅祭における発表場所およびバンドを含む発表団体の再考と白梅祭期間中の暑さ対策 ・普通科・音楽科・美術科の特徴を生かした学校行事の運営 ・部の精選 ・業務内容の質量に見合った部顧問配置 								
4 今年度の具体的な重点目標	<p>(1) 校則の見直し (2) コロナ禍における行事の実施方法の工夫 (3) 生徒の自主性・主体性の育成 (4) 業務の見直し(「例年通り」ではなく、「必要なことを行う」というスタンス) (5) 部の精選に向けた内規の見直し</p>								
年 度 目 標			年 度 末 評 価						
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標 ※アンケート(保護者・生徒・教員)			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価	
特活指導部 ◇特活指導	<p>(1)校則(服装)について話し合う機会を作る。 (2)執行部の育成 (3)生徒会活動全体の活性化 (4)各種業務のシミュレーションにより、本当に必要な内容を洗い出し、余分を省く。 (5)部員数・活動日・活動内容の調査。兼部の実態把握</p>	生	本校の学校行事は、充実している	90%	67%	84%	A	<p>○今年度、最も評価できる点は文化祭を実施したことである。多くの学校が中止する中、実施方法を工夫することで、コロナ禍での実施が実現し、今後の道筋を作ることができた。 ○校則の見直しについては、前年度生徒会から引き継ぎ、最終段階まで進めることができた。</p>	A
本校は、部活動が活発である			85%	80%	79%				
本校は、生徒会活動が活発である			70%	61%	71%				
		週一回の執行部会における意見交換	*	*	*	A			
		定期的な特活指導部会の開催(部内での情報共有)	*	*	*	B			
		事務担当者との連携	*	*	*	A			
12 来年度に向けての改善方策									
<p>・部活動のあり方(働き方改革を見据えた部顧問配置)</p>									

【 保健厚生部 】

2 現状の分析	<p>▲健康診断の結果をもとに自らの生活・健康管理を行うことができる。</p> <p>○「警報訓練」をきっかけに学校生活における防災(減災)について考える機会を増やすことができた。</p> <p>▲生徒の防災意識は向上してきたので、家庭・地域の連携のため活動を増やす。</p> <p>○環境整備を目的とした大掃除を、定期的に行えるよう年間計画に位置づけた。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断の事後指導への意識をさらに高める。 生徒総務委員を中心に防災意識を高める活動を実施し、防災・備蓄品の整備をさらに進める。 校内各箇所の清掃ポイントを明確にし、不用品の処分など周辺を整理して安全な環境を保つ。 新型コロナウイルス感染症予防を心がける
4 今年度の具体的な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 健康や安全を客観的に評価し改善する。 ◇ 事故や災害などに対する、防災意識を高める。 ◇ 常に校内美化の意識をもち、清掃等の徹底と生活環境の整備をする。 ◇ 新型コロナウイルス感染症予防の対策を立て、実践を行う。

年 度 目 標						年 度 末 評 価				
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価		
		※アンケート(保護者・生徒・教員)	指標	前年					結果	
保健厚生部	(1) 自らの健康・安全への意識を高める。	保	生徒の安全面や衛生面に考慮し、交通事故や健康管理などの指導をしている。	90%	89%	91%	定期健康診断を基にした健康指導(受診勧告等)	A	<p>○健康診断を受けた生徒が事後受診など健康管理への意識を高めるような指導を工夫する。</p> <p>○コロナ感染対策により、感染症の流行を抑えることができた。</p> <p>○在校時の非常変災時への対応については意識が高くなってきた。引き続き、非常変災時への対応ができるようにする。</p> <p>▲日頃から、全校生徒が校内をきれいに保つ意識をもてるようにする。</p>	
	(2) 全職員で安全点検し、危険箇所等の早期発見と改善への対応。	保	生徒に地震や台風の場合の対応マニュアルをはっきり示している	100%	89%	89%	非常変災時の対応について学校と家庭の連携	A		
	(3) 校内での地震対応を生徒に周知し、訓練を繰り返し実施する	保	訓練による校内の危険や避難等への対応を周知	*	*	*	今年度は、避難を伴う訓練を実施した。総務委員を通じての意識付けも行った。今後、家庭においても災害に対するより一層の意識の向上を図る。	B		
	(4) 変災時に対する備蓄の検討		災害に対する意識向上と、生徒用備蓄および緊急対応備品を常に確認	*	*	*	予防対策は確実に成果を上げることができた	A		
	(5) 新型コロナウイルス感染症に対する計画と実践を行う。		新型コロナウイルス感染症への予防対策を実践する。	*	*	*	大掃除で清掃のポイントの明示を実施できた。	B		
	(6) 日頃から、環境美化に対する意識向上の実践を図る。	生	本校は、清掃が行き届いており校内がきれいである。	65%	64%	64%				

12 来年度に向けての改善方策

- ・引き続き、コロナ感染症対策を中心に、感染対策に重点を置く。
- ・防災意識を、学校だけでなく、家庭でも考えられる取組を行う。
- ・環境美化に対する意識を、美化委員会を通じて、日常的に行う。

【 図 書 部 】

2 現状の分析	○前期は感染症対策の影響で図書館活動が制限されたが、後期になって貸出数の大幅増など従来の姿に戻ってきた。 ○活動の制約を受ける中でも生徒が自分たちでアイデアを出し合い、意欲的に取り組んだ。 ▲朝の読書など諸行事が実施できなかった。
3 学校の抱える課題	・今年度に引き続き、教科・分掌・学年との連携を図る。 ・生徒が少しでも本に興味を持てるように、広報活動を積極的に行う。 ・読書指導法の研究を行う。
4 今年度の具体的な重点目標	◇自ら本を手に取り、意欲的に読書活動を行う生徒を育成する。 ・各教科、分掌、学年と連携を図る。 ・委員会活動の活性化を図る。

年 度 目 標					年 度 末 評 価					
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価		
		※アンケート (保護者・生徒・教員)	指標	前年					結果	
図書部	(1) 朝の読書や「LHRの時間」を効果的に利用する。	生	朝読書が有意義であった	90%	89%	*	感染対策により朝読書など図書館行事が昨年に続き実施できなかったが、来館者や貸出数は例年以上になった。	B	○感染対策で制約を受けたが、委員会活動など意欲的に実施できた。 ▲文化祭不参加、芸術鑑賞中止など図書館行事が実施できなかった。	B
	(2) 年間を通じた委員会活動を計画する。	生	生徒は、学習習慣とともに読書習慣がついている。 (不読者率)	50%	38%	*				
	(3) 新刊案内や図書館通信の効果的な活用。		図書貸出冊数 (4月～1月)	4000冊	3315冊	4123冊				
			委員会活動は生徒の自主的な活動になっていたか。	*	*	*				

12 来年度に向けての改善方策

- ・感染対策を心掛け安心して図書館が利用できる環境を維持する。
- ・感染予防下にあっても実施可能な図書館活動を企画、工夫する。
- ・委員会活動の意欲的な取組を支援する。

II 学校関係者評価 (令和4年2月)

- ・学校目標を具現化する視点が重要である。Plan Do Seeの観点から、各分掌が設定した指標が「ほぼ満足できた」と評価されており、このことが生徒の落ち着いた学校生活につながっていると思う。
- ・ICTの活用は、生徒の興味を高め学習意欲の向上にもつながると思われる反面、すぐに答が出ることで想像力や思考力を低下させるのではないかと。
- ・生徒の悩みや不安などに学校全体で取り組み、生徒のメンタルの安定が保たれていると感じた。
- ・コロナ禍の制限のある中で、文化祭が開催できたことは生徒にとってとても良かった。今後も、コロナ禍においていかに学校活動を行っていくかが課題である。子どもたちが学校と自分とのつながりを実感でき、今しか学べないことを学び、体験ができる環境を作してほしい。